

一 般 質 問

要 旨



浄化槽整備推進事業に
県内初のPFIシステムを導入！

一 般 質 問 者 紹 介

岩 野 竹 工 紺 角 赤 相 張 畑 今 鳥 田 桜 東 堰 小 杉 石
 城 月 島 藤 野 野 坂 馬 摩 山 泉 越 中 田 田 野 野
 康 一 勝 正 忠 瑞 孝 真 博 親 勝 正 重 博 秀 展 洋 道 義
 郎 博 昭 廣 明 世 悦 子 弘 博 美 光 幸 夫 雄 平 夫 雄 義
 雄 郎 博 昭 廣 明 世 悦 子 弘 博 美 光 幸 夫 雄 平 夫 雄 義
 (発 言 順)

注) 発言順と掲載した順序とは一致しません。

第三回定例会での市政に対する一般質問は、九月十一日から十三日までの三日間行われ、十九人の議員が登壇した。財政運営、病院医師確保問題、観光政策など活発な議論が展開された。要旨は次のとおり。

総務文教

市町村合併について

質問 今後の市町村合併について、どのような考えがあるのか伺いたい。

答弁 平成十七年一月に合併して新市となったばかりであることから、当面は新市のまちづくりに専念し、十和田市の基盤づくりに努めていきたいと考える。

財政運営について

質問 厳しい財政運営の中で、仮に財政破綻した場合にどのようなことが想定されるのか伺いたい。

答弁 地方財政再建促進特別措置法では、一定額以上

の赤字の場合、財政再建団体に転落し、自主再建方式と準用再建方式の二種類から選択することになる。一般的には、国からの優遇措置もある準用再建方式を選択せざるを得ず、国の指導、監督のもとでの再建となる。歳入面では、使用料、各種手数料などは類似都市等との比較で最も高い額と同一になり、市民への負担が増加される。歳出面では、市独自で実施している事業の廃止や各種団体への補助金の削減、そして福祉、教育、環境などの事業が類似都市等との比較で最も低い水準となり、都市基盤整備も計画どおり実施できなくなるなど、行政サービスの著しい低下が予想される。

地方交付税について

質問 今後五カ年の地方交付税はどのように推移するのか伺いたい。

答弁 予測は難しいところであるが、総務省が平成十七年度に示した数値による試算から算出すると十八年度は実績で八十二億三千万円、十九年度は七十三億一千万円、二十年度は六十七億二千万円、二十一年度は六十四億五千万円、二十二年度は六十一億八千万円で推移すると試算される。



建設が始まった(仮称)アートセンター

市職員数について

質問 当市における人口千人あたりの市職員数は何人になるのか。

また、同規模程度の他市と比べ、この数字はどのく

らの順位になるのか伺いたい。

答弁 平成十七年四月一日現在、一般行政部門と教育委員会の特別行政部門としての普通会計部門において七・一人となっている。

また、この人数は、人口六万五千人から八万人規模で産業構造が類似している全国二十四の市のうち九番目に少ない職員数となっており、適正な定員管理の方向で進んでいると認識している。

行政サービスについて

質問 行政が行う各種事業の運営について、赤字、また赤字運営という言葉がでてくるが、どのように捉えているのか伺いたい。

答弁 市が行う各種事業は、概括的には行政サービスであり、行政サービスの提供に当たっては、最小の経費で最大の効果を得るという視点は欠かせないが、利潤のみを追求するという性格のものではないと認識している。事業実施に伴う地域活性化等の副次的効果など、地域社会全体としての観点、長期的視点からの事業の効果という側面も重要である

と考える。公共性を有する行政サービスについては赤字のみを捉えて、事業の可否を判断することは適切ではなく、収益性が低くても必需性が高いものについては行政が責任を持って対処すべきものと考えている。

補助金について

質問 補助金交付の団体数と交付額、また、補助金交付についての趣旨及び方針について伺いたい。

答弁 平成十七年度における交付件数は九十件で、交付金額は二億四千六十一万五千元となっている。趣旨及び方針については、法律では公益上、必要な場合に補助することができるとの規定になっており、交付に際しては、その団体の運営、もしくは事業に対する交付の目的、公益性、効果等を審査し、交付が適正であるか判断している。

補助金の性格から、いつまでも交付をしてよいものではないことも認識しており、今後集中改革プランに基づき、市単独補助金についても減額、廃止を含め、対応していかなければならないものと考えている。